

第7章 カリキュラムマップを用いた 目標管理シートの運用実績報告

米山 あかね¹, 野木森 三和子²

要 旨

学生が自ら学び続ける力を身につけるためには、学習に必要な基礎知識や能力を修得することに加え、目標管理のサイクルを継続的に回す習慣をつけることが肝要であると考えられる。本稿では、サイバー大学（以下、本学という）の1年次必修科目「スタディスキル入門」の必須課題とする目標管理シートの運用と実績について報告する。目標管理シートは、卒業時のコンピテンシーと科目の対応を明示したカリキュラムマップを参照しつつ、自己分析や目標設定を記入させるものであり、導入の結果、学生自身が描く将来像を目標に据えたコンピテンシー修得のために、学生の無駄なく効率的な履修に貢献していることが示唆された。

1. はじめに

本学のような全ての授業をインターネットで行うフルオンライン大学は、インターネットでの学習により、授業受講の場所や時間が自分で選択することができるという利点があるものの、一方で教員と学生、学生同士での直接的なやりとりが限定されるため、孤立した学習になりがちで、学生は少しの躓きで容易にドロップアウトしてしまう傾向にある。そのため、早い段階で、学生に学習習慣を身に付けさせ、自ら学び続ける力を身に付けさせることが望まれる。

自ら学び続ける力、すなわち継続的かつ自律的に学習をする力を身に付けるためには、学習に必要な基礎知識や能力を修得することに加え、自分で目標を設定して、その目標を達成するために必要な学習内容を把握し、現時点とのギャップを認識して履修計画を立て、遂行し、結果を内省する、という目標管理のサイクルを継続的に回す習慣をつけることが肝要であると考えられる（図1）¹⁾。本学においては、大学の育成人材像とディプロマ・ポリシーを定めており、それが学生にとって在学中に目指すゴールのひとつとなるが、2007年度の開学直後に入学をして、4～5年で卒業した学生を対象にしたアンケート結果（2012年3月実施）では、卒業時点でディプロマ・ポリシーのコンピテンシーについての意識が低いという課題が明らかとなった。

¹ サイバー大学 IT 総合学部・助教, インストラクショナルデザイナー

² サイバー大学 IT 総合学部・助教

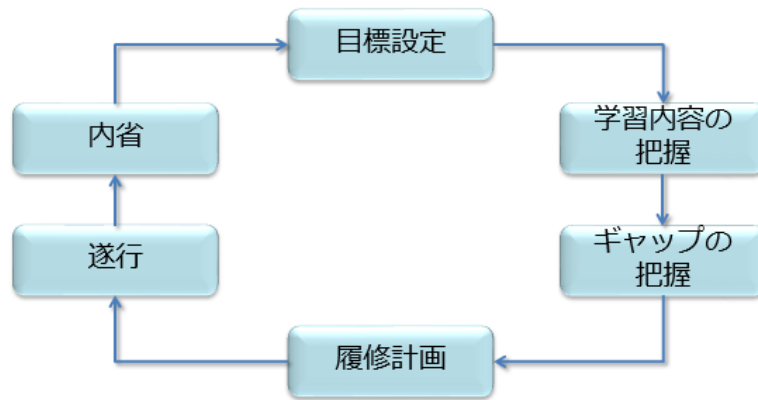


図1 目標管理サイクル

この課題認識に立脚し、IT 総合学部ではコンピテンシーと科目との対応を明示したカリキュラムマップを作成するとともに、1 年次必修の新設科目「スタディスキル入門」の必須課題として、目標管理シートの記入を課すことにした。本稿では、カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用と実績について報告する。

2. IT 総合学部のカリキュラムマップ

カリキュラムマップは、IT 総合学部のカリキュラムをディプロマ・ポリシーに基づいて体系的に再編し、修得コンピテンシー別に履修すべき科目を一覧化したものである(図2)。具体的には、6 つのプログラム毎に、育成を目指す代表的な職業例とともに、コンピテンシーに対応する科目が示されている。学生は希望するプログラムのコンピテンシーを充足するにはどの科目を履修する必要があるのかを把握することができ、そして自分はどの科目を重点的に学ぶべきかを検討することができる。

3. 目標管理シート

目標管理シートは、1 年次必修科目の「スタディスキル入門」の必須課題として、学生に自分の現状分析をさせ、目標を管理させること、計画を考えさせることを目的として作成した(図3および図4を参照。下記の①～④は図4の流れとの対応を示す)。それぞれの内容は次の通りとなる。

<目標管理> . . . ①・④

今学期の目標を設定し、まずは教員からのフィードバックを得る。それにより、学生は今学期の目標設定を適切に設定できたのかを確認する。そして目標設定をしてから一定期間後に、学生は今学期の目標の達成状況を振り返った上で、卒業時の目標(イメージ)を設

第7章 カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用実績報告

職業例	コース	プログラム	コンピテンシー	区分	年次	必修		
ネットワークエンジニア モバイルエンジニア	ネットワー ジ	ネットワー ク	ITとビジネスに関する基礎的な知識について説明できる。	基礎	1年次	ITのための基礎知識 ビジネス事例から学ぶ 経路入門 法律入門	インターネット入門 コンピュータのための 基礎数学	コンピュータ入門 経済学入門
					2年次	情報セキュリティ入門 プログラミングの基礎 インターネット管理 入門	会計簿記入門	経営戦略
				基礎	1年次	インターネット入門	コンピュータ入門	
					2年次	情報セキュリティ入門 モバイル通信Ⅰ インターネット構築法	UNIXサーバ構築Ⅰ インターネット技術Ⅱ	インターネット技術Ⅰ モバイル通信Ⅱ
			ネットワークの基礎的な技術について説明できる。	応用	3年次	UNIXサーバ構築Ⅱ		
					4年次	ゼミナールA	ゼミナールB	

職業例	コース	プログラム	コンピテンシー	区分	年次	必修			
職業例 ネットワークエンジニア モバイルエンジニア	コース名 ネットワー ジ	プログラム名 ネットワー ク	コンピテンシー 項目 インターネット通信を前提としたネット ワークアプリケーションの開発できる。	科目 年次 コンピテンシー項目	基礎	1年次	インターネット入門 情報セキュリティ入 門	コンピュータ入門 UNIXサーバ構築Ⅰ	インターネット技術Ⅰ
						2年次	モバイル通信Ⅰ インターネット構築法	インターネット技術Ⅱ	モバイル通信Ⅱ
					応用	3年次	UNIXサーバ構築Ⅱ		
						4年次	ゼミナールA	ゼミナールB	
					基礎	1年次	インターネット入門		
						2年次	インターネット技術Ⅰ	モバイル通信Ⅰ	インターネット技術Ⅱ

図2 IT総合学部カリキュラムマップの例(上)と各項目(下)

定し、来学期の目標を設定する。来学期の目標については、今学期の目標設定と振り返りを行った反省に基づきながら、卒業時の目標を意識して設定する。

<自己分析>・・・②

コンピテンシーについて、カリキュラムマップを参照しながら充足度を自己分析し、その理由を自分の言葉で記入する。カリキュラムマップを参照することにより、当該コンピテンシーに対応する科目を把握し、コンピテンシーの具体的な中身を知ることが可能となり、より客観的な視点のもと自己分析をすることができる。

<履修計画>・・・③

目標管理シートを課題として設定している「スタディスキル入門」は半学期(全8回)の授業であり、計画作成の時間が限定されるため、学生自身が履修計画を考えられるようになるための準備として、強化したいコンピテンシー、来期履修予定の科目数、本学での学習で重要だと考えるポイント、の3点を記入させることとした。

学生には、授業の途中で段階的に記入・提出させ、教員からフィードバックを返した後に、期末試験でまとめて記入させ、PDCAサイクルを回すように指導した。

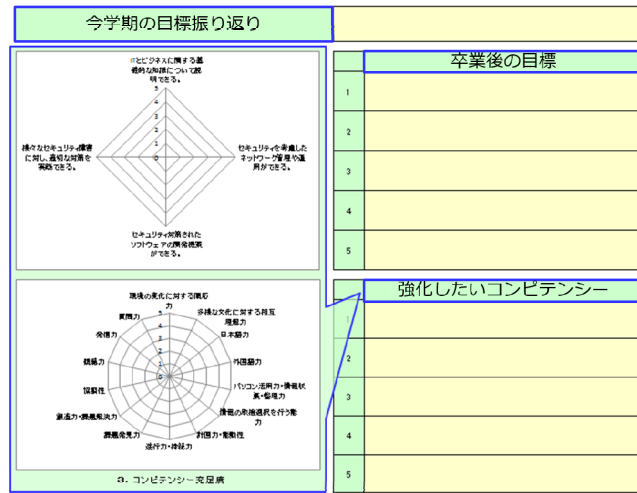


図3 目標管理シートの一部

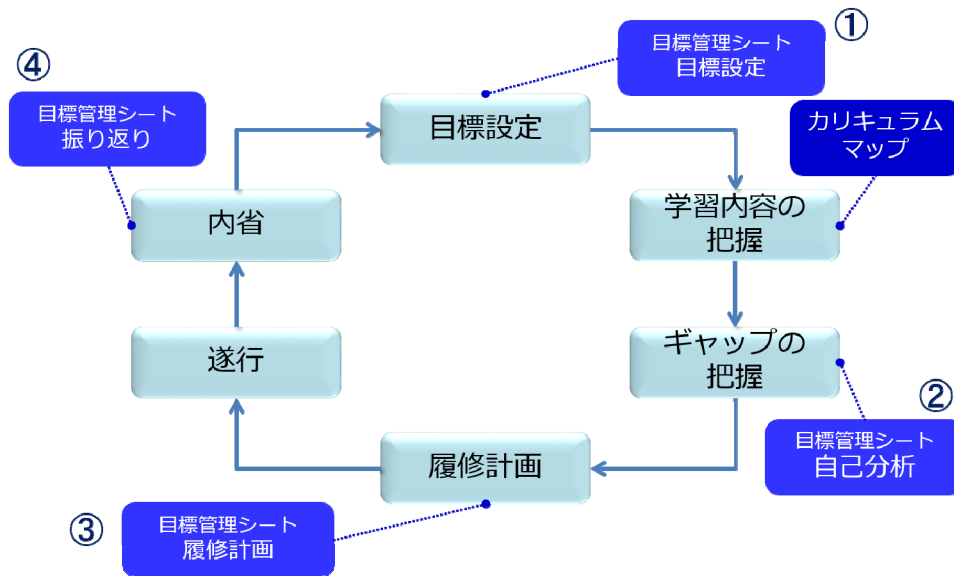


図4 目標管理サイクルと目標管理シート

目標管理シートは、「スタディスキル入門」で完結するものではなく、PDCA サイクルとして毎学期目標管理を繰り返すように指導しており、また、2 年次必修科目「スタディスキル実践」にて、再び課題として目標管理を行わせ、指導を行うカリキュラム設計となっている（図 5）。

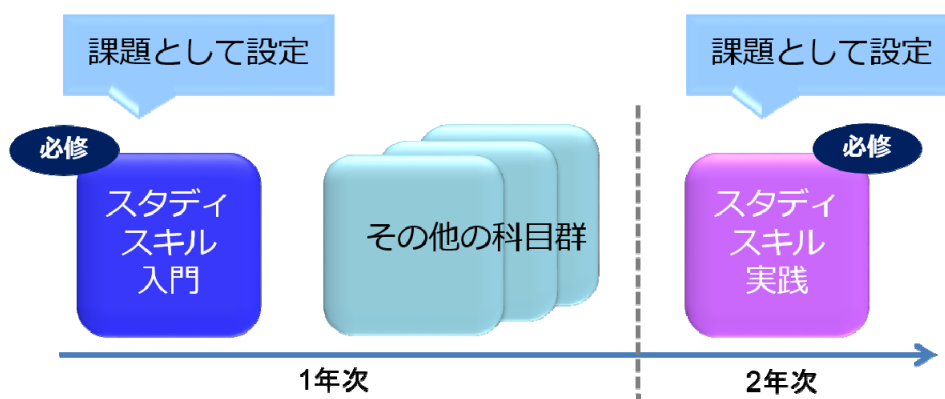


図5 目標管理シートの記入と活用

4. 導入の結果

「スタディスキル入門」の2012年度秋学期、2013年度春学期それぞれの学期末に学生を対象とした科目内アンケートを実施した。2012年度秋学期は105名中77名回答（回収率73.3%）、2013年度春学期は266名中221名回答（回収率83.1%）であり、質問項目として、「スタディスキル入門」について良かったと思う点や特にためになった点、負担を感じた課題、教員等の指導・励まし、フィードバック等に関して計26問を設定した。科目内アンケート結果および授業運営を担当した教員の所見から、下記の声が確認された。

【導入の成果】

<学生の科目内アンケート結果より>

- 自分の今後の方向性が見えてきた
- 目標を立てられた、目標が明確になった
- 計画を立てるのに役立っている
- 自己分析で課題が明確になった
- モチベーションの維持に役立った

<教員所見>

- レポート課題の最初のステップとして妥当なレベル
- 学生がどういうことに不安やスキル不足、強みや弱みがあると感じているのかが把握できる
- 学生の考えや背景をある程度把握することができるため、履修指導に役立つ情報が得られる

以上の点から、入学者が最初に受講する1年次必修科目において目標管理シートを導入した目的の通り、学生は卒業までに修得を目指すコンピテンシーについて意識をしながら、目標管理を行うことが可能となったと判断される。

一方で、導入の課題として下記の声があげられた。

【導入の課題】

<学生の科目内アンケート結果より>

- レポート形式であるため負担感が大きかった
- 自己分析が難しかった
- 明確な計画を立ててなかったため難しかった
- 自己分析をすることにより不安を感じた

<教員所見>

- 目的に合わせてより効率的・効果的になるようシートの最適化が必要
- 履修指導が部分的に留まってしまっている
- 学生が今後も学習習慣を継続できるよう、大学全体での学生自身の現状把握に役立つ仕組み作りが必要

以上の点から、導入の成果が見られた一方、より目標管理シートとして効率的かつ効果的な内容構成に見直すとともに、学生の不安感や取り組む上でのハードルを取り除くための丁寧な指導を行い、より広い範囲での履修指導と本人の継続的な目標管理を手助けできるような仕組み作りの必要性が明らかとなった。

5. 今後の展望

目標管理シートを導入したことにより、学生は自分がどのコンピテンシーを強化する必要がある、どの科目を履修すべきかを考える体験を経て、無駄なく効率的な科目履修に貢献していると考えられることができる。

カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用については、科目内での必須課題としての指導に留まらず、今後は、各科目におけるコンピテンシーとの関連性を客観的に数値化して学習成果の視覚化を図ることで、学生が更に自律的に卒業時の到達目標に対する現在値を把握することができるようにすることが必要である。同時に、教員側の立場としては、学生の不足するスキルを確認して、個別のプロファイルに応じた適切な履修指導を行うことができるようにすることが目標である。

第7章 カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用実績報告

注および参考文献

- 1) シャンクおよびジーマンによれば、自己調整のサイクル段階は「計画」「遂行または意思的制御」「自己内省」の3段階が想定されるという（ディル・H・シャンク，バリー・J・ジーマン(2007)『自己調整学習の実践』北大路書房，pp. 2-3）。筆者はこの3段階を参考に，目標管理のサイクルを設定した。

本稿は，2013年9月21日に日本教育工学会第29回全国大会にて筆者が行った発表「カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用実績報告」の内容をまとめたものである。

